

文部科学省委託事業 職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進  
平成 27 年度「職業実践専門課程」の推進を担う教員養成研修モデルの開発・実証  
実践的教育課程の企画手法と学習者主体の授業計画ができる研修モデルの実践および普及

---

# インストラクショナルデザイン講座

中堅教員編

《実施マニュアル》

---

一般社団法人 全国専門学校教育研究会

## 目次

はじめに .....	- 3 -
第 1 章 指導要領と実証講座実施マニュアル .....	- 4 -
第 2 章 実証講座受講者アンケート .....	- 11 -

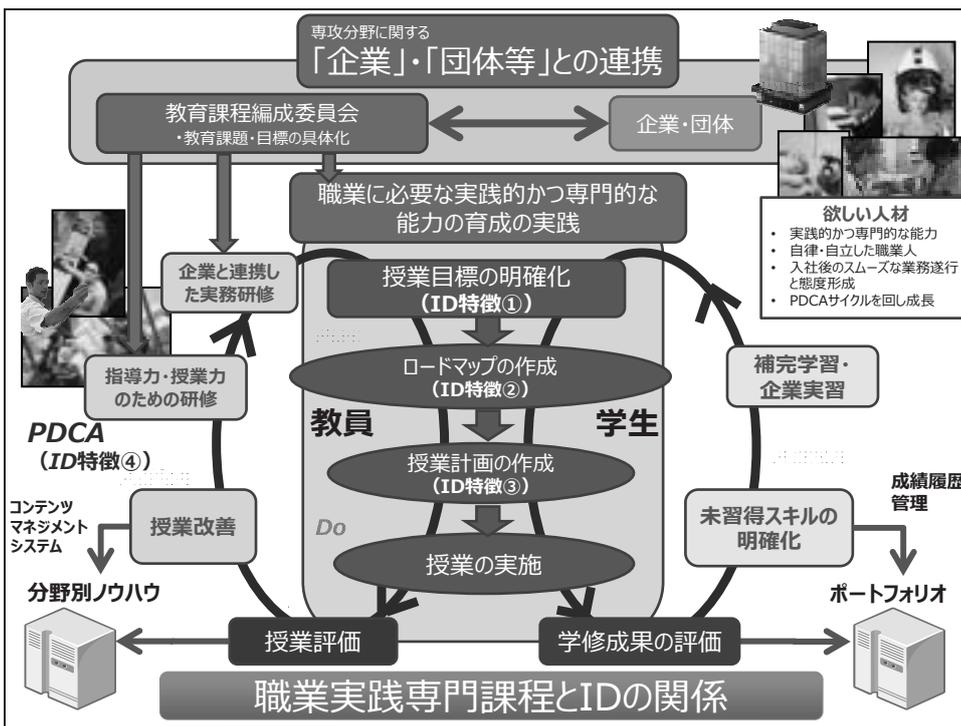
# はじめに

この実証講座全体の目的は以下である。

職業実践専門課程として職業実践的教育を行う上で、企業・業界が求める汎用的な能力向上を行うための教育課程の編成や演習・実習の授業運営を行う教員のコアスキルとして、最も効果的かつ効率的な教育を設計・開発技法を習得するための研修プログラムを開発・実証する。

その下に、インストラクショナルデザイン分科会は職業実践専門課程における教育の質向上を図ることを考え、以下を講座の目的とした。

- ・職業実践専門課程として企業等のニーズを取り入れるカリキュラム・シラバスの作成ができる教員の養成
- ・企業が求める知識・技術等を、学生がより高い水準で習得できるように、インストラクショナルデザイン（以下 ID）を用いた体系的なカリキュラムの編成を行える教員の養成
- ・産学連携による多様な教育方法を活用し、目標とする人材像に必須のスキル、もしくはその評価基準を可視化したシラバスの作成が行える教員の養成
- ・教員同士が相互フィードバックし、教育設計を学びあう仕組みと土壌を作成する



## 第1章 指導要領と実証講座実施マニュアル

実証講座 インストラクショナルデザイン講座 新任教員対象	7 時間
実証講座 インストラクショナルデザイン講座 中堅教員対象	7 時間
実証講座 インストラクショナルデザイン講座 講師育成講座	14 時間
<b>E-learning</b>	

**【1. 科目名】**

「インストラクショナルデザイン講座（中堅教員編）」

**【2. 担当講師】**

株式会社ウチダ人材開発センタ講師

**【3. 研修形態】**

講義、演習、グループワーク等による

**【4. 履修時間】**

7時間

**【5. 研修の概要と目標】**

昨年度からの継続事業として、職業実践専門課程を担う教員のスキル向上を目的として講座を開発した。企業のニーズ（知識・技術等）を学生がより高い水準で習得できるようにインストラクショナルデザインを用いて、産学連携などの多様な教育手法も活用し、体系的なカリキュラムの編成を行い、目標とする人材像に必須のスキル、もしくはその評価基準を可視化したシラバスの作成が行えるように構成した。

当講座は、コマシラバス設計と実施を1年以上経験した教員を対象として、特に「わかりやすく効果的な授業（シラバス）」のストーリー設計ができるようになる内容とした。この授業は半期、または1年の科目単位を指す。

**【6. 本講座の位置付け、受講後の効果】**

本講座は前述の通りコマシラバスの設計と1コマ以上の授業を実施した経験のある教員に科目単位（半期、または1年）の授業設計のスキルを学んでいただく。本講座の前段階である「インストラクショナルデザイン講座（新任教員編）」の内容はすでに知っていることを前提とする。次の段階は「インストラクショナルデザイン講座（講師育成編）」にて学内でインストラクショナルデザインの導入に関してリーダーシップを取り他の教員の授業設計を指導できるようになる。その3つのステップの2つ目のステップの講座である。

**【7. 本講座の修了条件】**

課題分析図作成演習で5割程度記述していること。

**【8. 配布資料一覧】**

- ①式次第（タイムテーブル）
- ②テキスト
- ③テキスト内ワークシート別紙（要望があれば配付）
- ④研修会アンケート用紙（記入後回収）
- ⑤事前課題（確認テスト）解答

**【9. その他の配布物等】**

- グループ札（A, B・・・）
- 模造紙 グループに3枚以上
- A3の白紙。人数分＋予備10枚程度
- 模造紙用マーカー（黒、赤、青）グループに各2本ずつ
- 正方形の付箋。1名あたり20枚程度。
- 長方形（2×7.5） 1名あたり20枚程度。

**【10. 機材】**

- 講師用 PC (スライド投影用)
- プロジェクター、スクリーン
- (成果物が紙の場合) カメラ、またはカメラ付タブレット、PC ※成果物を撮影して、プロジェクターで投影 (可能であれば)
- タイマー
- マグネットかテープ (模造紙を貼るため)
- マイクとスピーカー (広い教室の場合)

**【11. 事前課題】**

特になし

**【12. 会場レイアウト】**

- 1グループ4名~6名。机は島形式とする
- 前方に講師席、後方にオブザーバー席

**【13. 持参物】**

- ご自分の実際の授業を設計したシラバス、コマシラバスなど授業内容がわかる資料
- 自学校の理念・目的、学校の目指す人材像、などが分かる資料

進行時刻の目安	單元ごとのテーマ・項目	所要時間	内容等	教材等	方式
9:00	オリエンテーション	10分 10分	○開講のあいさつ、講師自己紹介 ○グループワーク（自己紹介） ・グループ内自己紹介（学校名、名前、担当教科、教員経験年数）1名1分程度。		
9:20	第1章 オリエンテーション	10分	○研修のねらいなど ・開発の目的、講座の目標、そして ID とは何かを簡単に説明 授業はどのようにして設計しているか。前任の教員のシラバスをそのまま実行しているのではないだろうか。自分で設計した場合は、どのような考え方・手法で設計しているか。その手順が ID である。ID は教育の効果・効率・魅力を高めることができる。今回は半期または1年の授業（シラバス）の設計手法を学ぶ。 ・対象 以下のことを伝える（厳密に挙手などして確認まではしなくてよい） 今までインストラクショナルデザインの研修を受講したことがある方。 もしくは同等の知識がある方。例）インストラクショナルデザイン講座（新任教員向け）など。 コマシラバスを作成して授業を実施している方。 すでに一年以上の教員経験があり 1 コマの授業設計を行い実施している方。 半期または1年の授業の設計を行う予定の方。 半期または1年の授業の設計を見直したいと思っている。	テキスト	講義
9:30	第2章 インストラクショナルデザインの概要と必要性	10分	※ポイントのみ紹介 ○ID の概要、シラバスとの関連、ADDIE モデルを紹介 ・ID の利点、事例、様々な理論を紹介 今回とりあげなかった理論も含めて、いろいろな考え方がある。今回扱うことを知らせる。みなさんや、みなさんの学校で実践しているやり方も、（うまくいっていれば）インストラクショナルデザインなのだと伝える。	講師	

進行時刻の目安	単元ごとのテーマ・項目	所要時間	内容等	教材等	方式
9:40	グループワーク	10分	○グループワーク（情報・課題共有）10分 ・現状の授業をどのように準備しているか？ ・科目の進行計画を作っているか？また授業の進め方を事前に作っているか？ ・悩みはあるかなど情報共有		グループワーク
9:55	第3章 学習目標の明確化	15分	・あとでどんな意見が出たか発表してもらうことを伝える ・グループ代表者からどんな意見が出たか発表 5分 ※2グループぐらい ※ポイントのみ紹介		講義
10:10	ミニワーク	10分	○5つの目標を明確にする演習 10分		
10:20	休憩	10分	～休憩～		
10:30	（続き）	15分	○学習内容は3つの領域、4つの分野がある。授業の目標を立てる際は、それを明らかにする ※ポイントのみ紹介		
	第4章 課題分析	15分	○課題とは何かを説明する。授業を終了した段階であるべき姿と現状との差、それが課題である。 ○課題分析の手法を紹介。学習目標の4つの分野にはそれに適した手法がある。テキストの例を紹介。		
11:20	演習	30分	○グループメンバーが持参した学校の理念・方針がわかる資料から1つ目標（目的）を選び課題を分析する。階層分析で。 30分 付箋と模造紙を使用 ・付箋を使い細分化した目標を書きだす。その後カテゴリごとにグルーピングする方法 ・上から順番に細分化していく どちらの方法でもよいが、前者の方が議論が活発になることが多い。 構成図の書き直しができるように、付箋を使う。 最終的には付箋間をマーカーで矢印を書いてつなげる  講師は演習中、悩んでいるグループに介入し、ヒントを与える。 細分化した内容が明確な目標の記述になっているかどうかポイント	模造紙 マーカー マグネット または テープ	グループワーク
11:50	昼休憩	60分	～休憩～		グループワーク
12:50	演習	30分	○ポスターツアーで発表 ・発表（ポスター・ツアー） 運営の仕方 例) A～F（6人6グループ）P49を参照 3		

進行時刻の目安	単元ごとのテーマ・項目	所要時間	内容等	教材等	方式
			分×6回 ≒25分  各グループの模造紙を壁に貼り、新たなグループで1グループずつ壁のポスターの前に立つ。そのポスターを書いたメンバーが内容を他のメンバーに説明する。 終了したら、時計回りに移動し、全員が話すまで繰り返し。 グループ数とメンバー数が合わない場合は、1グループから2名でも可。		
			<p>A グループ abcdef            B グループ abcdef            C グループ abcdef            D グループ abcdef            E グループ abcdef            F グループ abcdef</p> <p>a グループ 6名            b グループ 6名            c グループ 6名</p> <p>f グループ 6名            e グループ 6名            d グループ 6名</p> <p>F            E            D</p>		
		5分	講師からの総評。		
13:20	第5章 シラバスの作成	20分	課題分析図からシラバスを作成する流れを解説。チャンクの説明に注意する。 (情報提示と学習活動をチャンクという)		講義
13:40	休憩	10分	～休憩～		
13:50	演習	60分	○自分の授業の目標を設定し、課題分析する A3 白紙を横に使用。階層分析の場合、目標を上部に書き、下に向かってブレイクダウンする。長方形の付箋を使用するとやり直しができてよいと伝える 手順分析の場合も目標を上部に書くが、左から手順を書いていく。手順は目標ではないことを伝える。 演習中、見回ってアドバイス、質問対応を行う		個人ワーク
14:50	休憩	10分	～休憩～		
15:00	演習	30分	○グループ内発表 30分 ※1名5分程度 講師は回ってよい分析図があったら写真をとるなどする。 グループメンバーからフィードバックをもらい必要なら修正する		グループワーク
15:30	演習	20分	○シラバスの作成 課題分析図から、ワークシートを使用してシラバスに起こ		個人ワーク

進行時刻の目安	単元ごとのテーマ・項目	所要時間	内容等	教材等	方式
15:50	休憩	10分	す。 必ずしも毎回評価する必要はないことを伝える。 ○グループ内発表 ※1名1分程度 ～休憩～		グループワーク
16:00	第6章まとめ 演習	25分	○IDのふりかえり演習「ポスターツアー」 Dを使ってみて（振り返り・感想・気付き） ・ まず自分でまとめる 5分 ・ グループで共有・ディスカッション・資料作成 20分		個人グループワーク
	演習	20分	・ 発表（ポスター・ツアー） 運営の仕方 例）A～F（6人6グループ）P49を参照 2分×6回 ≒20分  各グループの模造紙を壁に貼り、新たなグループで1グループずつ壁のポスターの前に立つ。そのポスターを書いたメンバーが内容を他のメンバーに説明する。 終了したら、時計回りに移動し、全員が話すまで繰り返す。 グループ数とメンバー数が合わない場合は、1グループから2名でも可。 （12:50の演習と同じ運営）		グループワーク
16:45		15分	○まとめ 講師からポスターセッションの内容を踏まえ手短かにまとめる。司会より閉会の言葉。 アンケート提出後解散。		
17:00					

## 第2章 実証講座受講者アンケート

### 内容

1. 実証講座の満足度についてお聞かせください。

とても満足 満足 普通 やや不満 不満

理由

( )

2. 講座の目的・目標は理解できましたか？

理解できた どちらともいえない 理解できなかった

理由

( )

3. 職業実践専門課程の教員用として講座内容は、適切だったと考えますか？

そう思う どちらともいえない そう思わない

理由

( )

4. 使用教材についてお聞かせください。

①構成がよい そう思う どちらともいえない そう思わない

②みやすい そう思う どちらともいえない そう思わない

③役に立つ そう思う どちらともいえない そう思わない

理由

( )

5. 実習(演習)についてお聞かせください。

とても満足 満足 普通 やや不満 不満

具体的に

( )

6. 講師の教え方についてお聞かせください。

①総合的な満足度 とても満足 満足 普通 やや不満 不満

②説明の仕方がよい そう思う どちらともいえない そう思わない

③質問への対応よい そう思う どちらともいえない そう思わない

④時間管理がよい そう思う どちらともいえない そう思わない

理由

( )

7. 研修時間についてお聞かせください。

長すぎる やや長い 丁度良い やや短い 短い

8. 今回学習したインストラクショナルデザインの内容を自分の授業で実践しようと思えますか。

思う どちらともいえない 思わない

9. 今回学習したインストラクショナルデザインの内容で、どの部分が一番印象に残りましたか？  
またその理由をお聞かせください。

①職業実践専門課程と ID との関係

②明確な目標設定

③課題分析

④シラバス作成

⑤その他 ( )  
( )

10. その他、ご意見・ご要望、感想等自由に記入してください。

( )

主催

法人名	一般社団法人 全国専門学校教育研究会
会長	学校法人 浦山学園 理事長 浦山 哲郎
アドレス	<a href="http://www.zsenken.or.jp/">http://www.zsenken.or.jp/</a> 